

製品名: Cdc20 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08502**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	CDC20
別名	CDC20; Cell division cycle protein 20 homolog; p55CDC
遺伝子 ID	991.0
SwissProt ID	Q12834
免疫原	抗血清はヒト p55CDC 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

背景

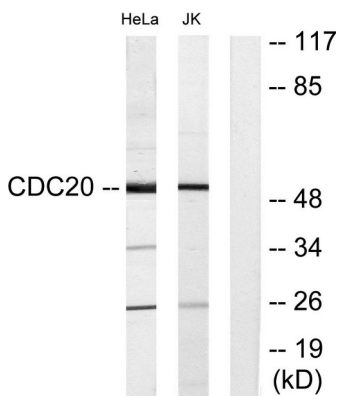
CDC20 は、細胞周期の複数の時点で他のタンパク質と相互作用する調節タンパク質として機能すると考えられています。これは、2つの微小管依存性プロセス、すなわち後期前の核の移動と染色体分離に必要です。[RefSeq 提供、2008年7月],発生段階: G1/S 期に

合成が開始され、タンパク質レベルは M 期にピークに達し、M/G1 期遷移でタンパク質は急激に分解されます。機能: 後期促進複合体/サイクロソーム (APC/C) の完全なユビキチンリガーゼ活性に必要であり、複合体に基質特異性を付与する可能性があります。MAD2L1 によって制御されます。中期では MAD2L1-CDC20-APC/C 三元複合体は不活性ですが、後期では CDC20-APC/C 二元複合体が基質分解において活性です。経路: タンパク質修飾;タンパク質のユビキチン化。PTM:有糸分裂中にリン酸化される。おそらく成熟促進因子 (MPF) によるものと考えられる。PTM:紡錘体形成チェックポイント中にプロテアソームによってユビキチン化され、分解される。類似性:WD リピート CDC20/Fizzy ファミリーに属する。類似性:7つのWD リピートを含む。サブユニット:CDC20、CDC27、SPATC1、TUBG1 との複合体を形成する。SPATC1 と相互作用する (類似性による)。MAD2L1 および BUB1B と相互作用する。リン酸化型は APC/C と相互作用する。

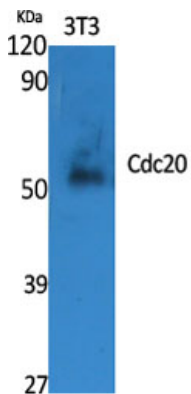
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;ユビキチン媒介タンパク質分解;

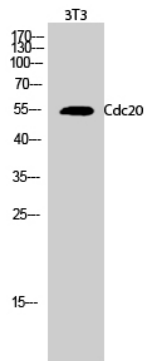
画像データ



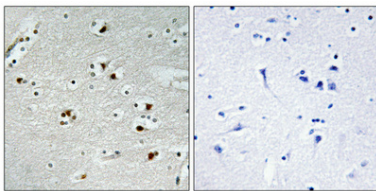
p53CDC 抗体を用いた Jurkat 細胞および HeLa 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Cdc20 ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析



1: 2000 に希釈した Cdc20 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウエスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。